

“悪口の伝書鳩ってなに？…”

先日、家でドラマを見ていると、「Aさんがあなたの悪口言っていたよ」と主人公の女の人に言っている場面がありました。それを見ていた、うちの家族が、「こういう余計なことを言う人っているんだよね」、「ほんと、悪口の伝書鳩だよね」と言っていました。「悪口の伝書鳩って何？」と聞くと「言わなくていいことを言って、わざと人間関係をこじらせようとする人のこと」、「だいたいそういう人がいるグループはもめ事が多く、よく誰かが泣いているんだよ」、「私はめんどくさいから、相手にしなかったけど」と言っていたので「こんな悪口の伝書鳩はきたことないの？」と聞いたら「あるけど、時間の無駄だから無視してた」、「こういう人って自分が可愛い、かまってちゃんが多いから、関わりたくないし・・・」と言っていました。まあ確かにドラマを見ていると“悪口の伝書鳩”のせいで事件やトラブルが起きたりしています。（まあそれがないとドラマにならないのかもしれませんが・・・）“悪口の伝書鳩”をする人のパターンを見ていると『自分より幸せなのが許せない』、『自分より出世するのが許せない』など**相手に対する妬み、ただ単にこじらせて人が困っているのを見るのが好き**、『その人のためだ』と良かれと思って言ってしまう勘違いしている人、何も考えず、聞いたことをすぐに話してしまう人などです。確かにあんまり関わりたくないことには違いありません。元をたどれば、最初に悪口？（本当に悪口かどうか分からない）を言った人が一番悪いのですが・・・それでもその人が聞いたら、不愉快な思い、嫌な気持ちになると分かっていてその人に伝えるのは人としてどうなのかなと思います。テレビのドラマやサスペンスの中では、“悪口の伝書鳩”がいることで、話をこじらせて、見ている人が「この後、どうなってしまうのだろう・・・」とか、事件を複雑にして、見ている人に「誰が犯人なんだろう、気になるな」と思わせることによって視聴率を上げるのに役立っているのですが、現実では、“悪口の伝書鳩”は、ただの迷惑でしかありません。皆さんの周りには“悪口の伝書鳩”のような人はいないと思いますが、今後いつどこかで出会うかわかりませんし、もしかしたら知らないうちに自分が“悪口の伝書鳩”になりそうになることもあるかもしれません。そんな時は、まず、「これは伝えるべきなのかどうか」を考えることです。伝える必要はないことがほとんどですが、**褒め言葉などプラスの言葉は、相手の状況によっては伝えた方がいいこともあります**。しかし、悪口、否定的な言葉、相手を落ち込ませるようなことは当然、伝えてはいけません。この判断は、とても大切です。よく考えて間違えないようにすることが大切です。後、人の悪口などに、同意を求められたときは、「私はわからない（知らない）」「私はそうは思わない」「そんなこと言わない方がいいよ」などと、決して同意をしないことが大切です。もし、仮に自分の所に“悪口の伝書鳩”がきてしまったら…その時は無視するといいです。落ち込んでしまうと“悪口の伝書鳩”が喜ぶだけですから。それに“悪口の伝書鳩”とはいいい友達関係になる必要がないので。